



村民体育大会 4年ぶりの開催

コロナ渦の中、近年中止となっていました村民体育大会が、来る10月29日、日曜日に大和中学校グラウンドで開催することが決定しました。今回の大会は、第56回となり、「みんなが活躍 笑顔で応援 大和村！」を大会スローガンとして、22種目のプログラムで行われます。

今年は、4年ぶり開催となるため全7チームの白熱した競い合いが見られそうです。村民の皆さんの各チーム応援をお願いいたします。

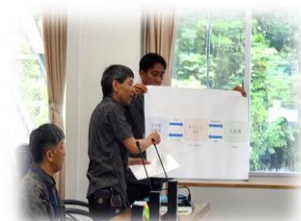


子どもたちの声を村の政策に！

将来の大和村を担う子どもたちが、村政への関心を高めたり、議会の仕組みを学んだりすることをねらいとして、毎年「子ども議会」を行っています。本年度は、8月25日(金)に行われました。

名音小学校の6年生児童が議長として議会を進行する中、各小学校の5・6年生の児童10名が子ども議員として、大和村をよりよくするための提案(一般質問)を行いました。子ども議員の質問に、村長、副村長、教育長はじめ、各課長が答弁を行いました。

子ども議員の一般質問では、小学校の児童数を増やすための施策を提案したり、災害時の避難所や情報伝達手段について質問したりと子どもたち目線の意見が出されました。各課の答弁は、子ども議員にわかりやすく、納得できるものでなければなりません。そこで、写真や資料を示したり、児童がわかりやすい言葉を使ったりするなど工夫して行われました。今年は、奄美群島日本復帰70周年に係る質問もありました。子どもたちが様々なことに関心を寄せていることがよく分かりました。子ども議員の皆様、指導された各校の先生方、ありがとうございました。



奄美群島日本復帰70周年特別寄稿

【思勝の学校に爆弾が落とされた】

玉井俊一(昭和11年生 思勝在住)

わたしが思勝国民学校(図1)に入学したのは昭和18年の太平洋戦争中の年でした。

当時は電気がなく、石油ランプの暗い灯りでした。また、水道も無く、近くの川水や手こぎポンプで水をくみあげていました。食べ物もあまりなく、サツマイモやソテツのおかゆなどが主食でした。畑だけでは足らずに、思勝の山にもサツマイモを植えていました。

終戦間近の昭和20年になると、沖縄がアメリカ軍の攻撃で悲惨な戦場になり、奄美も空襲を受けることがしばしばでした。思勝の家も焼夷弾が落とされ、屋根に火が付き、みんなで豚の餌用のバケツを使って川から水を汲んで消し止めたりしました。

そんな時、日本の兵隊さんたち200名ほどが学校に夜寝泊まりするようになりました。兵隊さんたちは気さくで、楽しく遊んだりしてくれましたが、やがて沖縄に向かったのか、いなくなりました。しかし、それがアメリカ軍に知られたのでしょうか、思勝の山の向こうからアメリカ軍の飛行機が飛んできて、爆弾を落としたのです。(図2・3)

学校は空襲が激しくなって休み中だったので、人に被害はありませんでしたが、直径30mほどの大きな穴が2つあきました。(図4)

もし、子どもたちが学校に来ていたら大変なことになっていたことでしょう。

その穴に水がたまり、危険でしたので、みんなで穴埋め作業をしたものでした。

二度と戦争のない平和な時代が続いてほしいと願っています。

(図1)



(図3)



(図2)



(図4)

